

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念として</p> <p>①利用者の尊厳の確立と利用者中心の介護 ②身体的・精神的ケアの充実と生きがい作り ③地域との交流を密にし、開かれた施設の実現 ④和顔愛語を常に心がけた介護</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者・職員は、毎月の会議・ケア・カンファレンス等で理念を確認し、理念の実践を目指している。会議やケア・カンファレンスでは毎回活発な話し合いがなされている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で、区長さんを始めとする地域の代表や家族代表に理念やホームの現況を報告したり、また、外部の方の知恵を借りたりしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の折には、会う人と挨拶をしたり話すように心がけたりし時に野菜をいただくこともある。施設の花火大会には近所の子供に声をかけ参加してもらっている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の祭り見物には、家族に車を出してもらったりして毎年出かけている。地域の、大正琴や手品の得意な方には時々来ていただいている。火災の時には地域の人に協力していただきたい旨の文書も届けお願いしたことはある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>以前地域の学校に依頼されて、高齢者介護について講話(質疑・応答を重視した)をしたことがあり、運営推進会議では、介護等のことで役立つことがあればやりたいと提案しているが、まだ実施できていない。</p>	○	<p>職員会議や運営推進会議等で話し合い、介護について、特に認知症介護の相談などできる範囲で行って行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>例年外部評価の改善すべき所は職員で話し合っって対処している。自己評価の一部については、会議の時に話し合っって評価している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、ホームの現況や課題となることも議題とし、また、次第の中にいつも『推進会議委員からの提言』という一項を設け参考としている。今年は、家族代表も実現した。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の健康課介護保険係へ現況報告書を2ヶ月ごとに提出している。前記係から空室は無いかの問い合わせは時々あり、当方から空室ができた旨連絡したこともある。町主催の介護に係わる研修会には参加可能な職員は参加している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>昨年町の健康課主催による成年後見制度の研修会があり、現管理者が参加。現入居者の中に司法書士を保佐人としていた方もいる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>介護関係の資格を持っていなかった人には、認知症介護基礎研修の受講や二級ヘルパー資格取得を推奨したりし学習させ、日頃から虐待の話題をだし、防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約等の際には、「重要事項説明書」を渡し、相手に説明したり質問に答えたりし、理解や納得を図っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>食べたいもの、やりたいこと等を聴くことをはじめ、できるだけ利用者の希望や考えを聞く機会を多く設けている。利用者との意思疎通は重要なことと考えている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者が変わったことがあった時や相談したいことがあったときは、できるだけこまめに相談にのってあげている。家族等に連絡やお願い事があるときは、利用料の請求時に文書を送付している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の家族宛に「苦情申し込み窓口の設置について」の通知文を配布し、面会時に、施設に対する要望等の有無を確認する習慣をつけている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、職員会議を開催し、常に職員等の意見・提案に耳を傾けて、職員のモチベーションを上げる努力をしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の勤務体制には、ある程度余裕があるので急な変化にも対応しやすい。また、職員同士の勤務交代にも柔軟に対応できている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の人事異動は、極めて少なくし利用者との親密感に配慮している。そういうことから、利用者の日常生活や状態がよく把握できていると考えられる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加するように努めている。未経験者には、認知症基礎研修を受講させたり、ヘルパー二級の資格取得を推奨している。書籍や電子辞書も常に施設内に用意し、自己啓発に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会の勧める見学研修や交換交流研修等に一年に一回以上参加できるように努めている。また、研修後には、伝達講習会を開催している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、職員の健康管理やストレスの軽減・解消には常に配慮し傾聴スキルの取得講習・カウンセリング技術を学習しストレス軽減に役立てている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が意欲的に取り組んで好結果を上げたりしたときは、評価したり感謝状を贈ったりして報いるように努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>良き介護は、個人理解に始まって、個人理解に終わるというようなつもりで、意思表示のできる人からはよく聞き、それ以外の人は、家族から左欄のようなことを聞く努力を行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居を考える家族の対応は、主に管理者があたり、時間をかけてじっくりと様子を聞いている。話し手の家族のカタルシスになることもあると考えられる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に対応に当たる管理者は、各種高齢者施設や医療機関等の情報を常に把握していることから、必要なサービス提供を助言できると思う。当施設からデイケアに通う利用者もいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学はもとより、当施設に来られない人には、自宅や病院に出向いたりして、入居を考えている人に助言をしたり親和関係(ラポール)を築くように努めている。できるだけ納得した上で、利用してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	芋の皮むきやできることは利用者にやってもらうようにしている。散歩の時車椅子を押せるひとには手伝っていただきお礼の言葉をかけるようにしている。また、回想法を通じて、昔のことなど教えてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	祭り見物の時、車をだしていただいたり、バーベキューの手伝いをお願いしたり、オカリナや紙芝居をやっていただいている。家族等の面会回数をできるだけ多くしていただけるようお願いしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月の利用料支払いは、施設に出向いていただくことを原則とし、このとき、家族とのふれあう時間をもてるよう、自室でお茶を飲んだりして楽しい時間が過ごせるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅願望のある人や生家に帰りたい人には、施設の車でドライブに出かけて、できるかぎりの努力を行っている。また、親しかった従兄弟等に面会に来てもらえるような配慮をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性を考慮し、席順を決めたり助け合えるように配慮している。食事や遊びリレーション等で互いに親しくなれるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後についても、必要に応じ相談にのったり、入院中の洗濯物を引き受けたりしている。また、利用者死亡後も家族が野菜などをもって訪問してくれる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で意思表示のできる方には、できるだけ話すようにしている。話せない方も笑顔やスキンシップでの意思疎通が図れるのでできるだけ意向をくみとるように努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、家族から生活歴、生活状況等をできるだけ詳しく記録してもらったりして、趣味・趣向・食べ物の好き嫌いを聞き取り、入居後の支援に役立てている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	残存機能把握は、本人に確認したり家族から聞き取り利用者個々のADLを維持するように努力している。また、廃用症候群にならないよう遊びリテーションを重視している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者は、本人との触れ合いに心がけ聞いたり、試したり、また、介護職員や家族からの聞き取りをし、ケアカンファレンスの内容を重視して介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、三ヶ月ごとに見直しを行い、それ以前に変化があった時は、その時点で見直しを行っている。介護計画作成前にモニタリングを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルサインや食事摂取量他は、一ヶ月間の記録用紙(個人生活記録表)に記入し、変化をわかりやすく、見やすくし、他の所見や介護については、個人の介護記録に記入する。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	従業者に余裕があるので、必要に応じ、受診・デイケア・自宅への用足し(荷物持ち等)の送迎、ドライブなど行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大正琴や手品・オカリナ・歌・ハーモニカ・舞踏・太極拳・紙芝居等のボランティアグループの来訪や消防署の協力は受けている。地域の農家の畑でアブラナ摘みもさせてもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、医療機関のデイケアに週一回通所している方の送迎を行っている。また、他施設での歌謡ショーへの参加も行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターから施設に空きはないのかの問い合わせや空きができたときの連絡をしたり、同センターが中心となる研修会(精神科医・理学療法士等講師)に参加している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族の意向を大切に決めていますが、施設の協力医が、かかりつけ医となっている方は多い。この協力医のひとは、往診・看取り時の夜中もよく見ていただける。必要に応じでは、職員が受診の送迎をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	数少ない認知症の専門医や詳しい医師との連携が実現できるようにはたらきかけていきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替え、オムツ交換等人前では行わないなど誇りを傷つけないような介護や言葉遣いによく留意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	生き甲斐を持って暮らせることを理想としているので、散歩・ドライブ・食事メニュー・その他希望することを個々の人にできるだけ丁寧に聞き、想いが達成できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の介護支援を目指しているので、その人の楽しみや好きな話題、生き甲斐はどんなことかなどを考えながら、また、他の人から攻撃されないような支援に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性は、化粧をしてやるととても喜んでくれるので、誕生日や時間のある時には行っている。オシャレについては、職員が援助している。また、隔月に理容師が来訪している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の人の好みを聞いたり、食後に味付けはどうだったかを聞いたりして、調理の参考にしている。利用者のできる仕事を見つけ、活躍の場を増やすようにしている。手伝いをさせていただいたあと、お礼の言葉を言っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物などなるべく希望を聞き、各人の好みを把握するようにして、栄養補給や水分摂取がうまくいくよう配慮している。今は、タバコ・酒の希望者はいない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握してトイレ誘導を行って、失禁をできるだけ防ぎ、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人週二回の入浴を原則としているが、汚れたときなど、いつでもシャワー浴はでき冬場は足湯も行っている。一日4～5人の入浴なので比較的ゆっくり入浴できる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	質の良い睡眠を得るため、昼間は、散歩・軽体操・口の体操・遊びリテーション、時にドライブなどをして、活動的に過ごし、眠剤の使用はできるだけしないように努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	このことについては、力を注いでいるつもりです。歌唱・ハーモニカ・キーボード・ゲーム・軽体操・口の体操・散歩、用足しを兼ねたドライブ、俳句作り・ボランティアの来訪を仰ぐなど、できる仕事をやってもらうなど活躍の場を設けるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる人にはやってもらう考えであるが、今は、それを希望し、できそうな人はいない。以前は、自己管理の方もいた。また、お金を盗まれたという妄想の方もいた。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の心身に与える影響は大きいと思われるので、できるだけ行っている。花見(桜・リンゴ・アジサイ等)・ブドウ・リンゴ・もみじ狩りは、年中行事として行っている。また、用足しを兼ねたドライブも行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	バーベキュー・シャクヤク園やお祭り見物など家族の応援を得て行った。自然史博物館などにも行ったことがあるが、多人数のボランティアを頼むのは少し負担である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出せる人には、出すことを勧めたり、代筆をしたこともある。富岡市長に敬老行事のお礼の手紙を本人筆や代筆でしたら丁寧な返礼の手紙が届けられ、出した方は感激したこともあった。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者を歓迎し、飲み物を出すことを慣例とし、職員は笑顔で応待している。自室での語らいができるようテーブルや椅子の用意もしてある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為については、ヘルパー資格修得や研修等で学習したり、施設内の会議の折りにも学習した。新任職員については、学習テキストで学習し、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と西出入口には、人が通ると音声で知らせるセンサーを設置して、日中は鍵をかけないケアの一助としている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在と状況を把握しているよう努めている。建物の構造は、全室の様子がわかりやすいものとなっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・刃物・洗剤等注意の必要なものは、鍵のかかる場所に保管して管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある利用者のトイレ誘導や運動歩行の時は、手を握って行ったり、歩行器での運動歩行では付き添って行っている。日々の申し送りやケアカンファレンス・研修会等への参加で事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	例年行われている救急講習会には、何人かの職員が参加し、伝達講習もできる範囲のものは行っている。急変時等の緊急事態対応のマニュアルは作成してある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災についての消火・通報・避難等の訓練は、消防署員の指導を受け実施している。防火管理者は、選任し、消防計画を作成している。地域の方々の協力を得られるよう協力要請の文書を配布しお願いした。また、災害時の非常食として缶詰やふりかけの備蓄はしてある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランは、家族に渡すとともに了解を得ている。必要に応じて家族に連絡したり、面会時に話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェック・食事摂取量・排便の有無他一ヶ月記入できる「個人生活記録表」を利用したりして体調変化を把握し、必要に応じて看護師と連絡し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の種類は多く、そのすべてを職員全員が薬効や副作用を理解しているとは言えないが、薬についての本や電子辞書を用意しており、薬害について処方医に相談し好結果を得たこともあった。	○	薬の説明書をよく読んだり、看護師に聞いたり、薬についての本や医者からもらった薬がわかる本の電子辞書版を読んだりして知識を得たい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表をつけ、水分量・食べ物・運動・服薬の調節・入浴・腹部マッサージ等で便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの負担は軽くはないが、肺炎予防としても大切なので努力している。入れ歯は洗浄剤を使っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスとともに各人に過不足のない食事量とすることや各人に摂取しやすい形状にしている。水分摂取は不足しないよう飲み物の種類や氷を入れて冷やすなど工夫している。入浴後は、水分補給を欠かさない。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成してある。インフルエンザの予防接種は毎年行い、食前の手指消毒や帰所後の手洗い、うがいは習慣にしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、野菜も含めほとんど熱湯消毒できるものはやりまな板・布巾・包丁等調理器具は殺菌剤で毎日処理し衛生管理をしており、今まで一度も食中毒等は発生していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関近くには鉢物や小さな花壇もあり季節によっては花も見えたり目隠しを兼ねた飾り棚を設置している。駐車場には生垣もあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール周辺の壁には絵画や利用者の写真・季節感を演出する植物もあります。季節の生け花・果物など絶やさないように努めています。調理場からは香りも音も聞こえます。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の端にはソファがあり3～4人は掛けられ、そこから中央のテーブルの方を見ることが、横になって休むこともできる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や装飾品・家族写真などが置かれ、自分の部屋として居心地よく暮らしている。仏壇と夫の位牌をおき毎日礼拝していた利用者もいた。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレの換気扇三カ所は常時回している。寒暖の差のないときは、欄間の大きな換気窓を開けたりして換気に心がけている。部屋やトイレのにおいが臭いときは、移動用の小さなオゾン脱臭・除菌機を壁に掛けて使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴槽の必要な箇所・ホール内には手すりを取り付けている。ベッドには、必要に応じ手すりを使いやすいように取り付けている。浴槽内外には滑り止めをしいている。自立した生活を維持するための運動機能改善のための運動量確保の支援を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室入り口の戸には、名札の他にわかりやすく目立つような飾り物を付けたり、トイレの表示も分かり易くしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダがないので天気の良いときは玄関の外のセメント舗装のところでおやつを食べたり、外気浴をしたりして気分転換を図っている。ピクニックテーブルは用意してある。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが（出るのが困難な人あり）
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 会話や心の交流を図る機会・時間をできるだけ多くとることや音楽療法・回想療法による心のケアを常に念頭に置き生き甲斐を持って生活できることを目指します
- ・ 歌唱、体操、口の体操、散歩、レクリエーション等楽しみながら健康や生活能力の維持向上を目指します。
- ・ 四季の変化に応じた行事（花見、花火大会、りんご狩り、紅葉狩り、）ボランティアの慰問、心を込めた誕生会などを行い、生活に彩りを持たせられるよう努めます。
- ・ 職員は常に和顔愛語（わけんあいご）の接し方を心がけ、利用者が明るく安らかに生活できるよう努めます。
(利用料は低いと思いますが、介護の質は高くを追求しているつもりです。)